

市政執行方針

「ワンチーム」で明るい未来に向かって

2月26日から開催された市議会定例会では、工藤市長の市政執行方針演説や一般行政報告を行ったほか、3月補正予算及び新年度当初予算の審議が行われました。
※内容は一部を要約して掲載しています。全文は、市ホームページをご覧ください。



はじめに

令和3年度は3期目の任期の折り返しとなる年で、これまでの経験を充分に生かした市政運営を心がけることはもとより、アフターコロナの新しい社会に踏み出す第一歩となるよう、気を引き締めています。
経済や財政的には大変厳しい船出となりますが、これまで以上に市民の皆様との協働を意識しながら、確実にギアアップできる1年となるよう、市政運営に当たる覚悟です。

①子ども・若者の夢を育み次代を担うひとづくり

◆ふるさとに愛着を持ち続ける人材の育成

子ども達が発達段階の早い時期から地元の産業に触れられる機会をつくるなど、産業教育の充実による環境づくりを進めます。

高校生による「観光マイスター」の資格取得の取り組みも、若い世代がまちの魅力を再認識できる機会となっており、令和3年度もその取り組みの充実を図ります。

◆デジタル教育の推進

小中学校で整備を進めてきた校内通信ネットワークやタブレット端末を有効に活用し、児童・生徒一人ひとりの能力や適性に合わせた指導の充実に努めます。

稚内北星学園大学は、令和3年度に京都市内にサテライトキャンパスを設置しますが、eスポーツの関係企業との連携した取り組みなどは、オンライン講義による稚内本校への導入も予定されています。これからのSociety5.0社会に必要なとされる優秀な技術者の輩出を期待し、このまちを拠点に活躍する人づくりにつなげたいと考えています。

◆保育環境の整備

女性の社会進出による保育ニーズが高まっております。その環境づくりが求められています。保育士の効果的な配置など、効率的な保育体制の構築が必要であるため、令和4年度の公立保育

所の統合に向けた準備を進めます。

一方で、民間においても令和2年度から「認定こども園」への取り組みが進められ、その第一号が令和3年度中に完成します。今後とも官民連携し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。



認定こども園として整備される稚内鈴蘭幼稚園

②安らぎの空間に笑顔あふれる基盤づくり

◆稚内空港

稚内空港を含む道内7空港の民間委託は、コロナ禍の中、当初計画の大幅な見直しを余儀なくされていますが、アフターコロナにおいて、道内空港のネットワークが強化されることが期待されていますので、そこに向かって、広域観光の体制づくりに取り組んでいきます。

◆JR宗谷本線

JR宗谷本線は、鉄道における北海道の骨格を構成する幹線であり、航空路と結ぶ二次交通としても、北海道に大きな役割を担っています。改めてその重要性を再認識し、市民の鉄道利用への意識醸成に努め、観光での積極的な利用など、取り組みを進めます。

◆道路・交通網

国道40号は、道北にとって重要な地位を占める幹線道路であり、名寄以北の規格の高い道路の整備促進を積極的に働きかけることや、交通拠点としての稚内空港や稚内港までのアクセス道路整備について、検討を進めます。

◆市役所新庁舎建設

令和3年度は、基本計画に基づく基本設計に着手しますが、その中で、敷地に対する建物の配置など、設計条件について検討を進めます。

「まち」と「みなと」の連携の中で、JR稚内駅を中心とした交流拠点の「キタカラ」と、新たな庁舎を中心とした「公共・公益機能」との連携拠点を形成し、2つの拠点を結ぶ都市軸から新たな人の流れをつくり、その流れを中央地区全体に波及させたいと考えています。

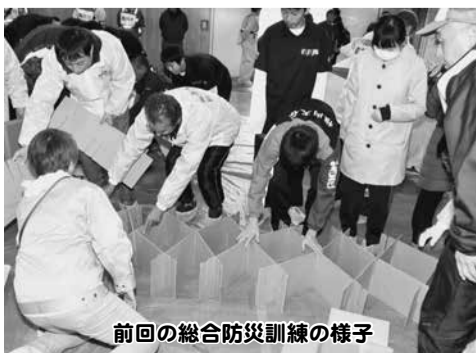
◆立地適正化計画

稚内中学校の移築が現実的な検討のテーブルに載ったこともあり、この移築に合わせ、北地区全体のグランドデザインが求められています。市役所新庁舎を含め、市街地全体の都市機能・居住誘導区域の設定による公共施設の集積や、適正な配置という観点で、令和3年度から2力年をかけて「立地適正化計画」の策定に着手します。

◆地域防災力の強化

令和3年度は、隔年で実施している総合防災訓練を行い、防災関係機関との協力体制を充実させるほか、

自主防災組織の結成や、避難行動要支援者名簿の整備などを継続的に実施します。また、高齢者世帯や障がい者世帯など除雪弱者への支援については、自助、共助、公助により、互いに助け合いながら、快適な冬の生活を過ごすことができるよう努めます。



前回の総合防災訓練の様子

◆上下水道

荻ヶ丘浄水場や終末処理場の耐震化を進めるため、耐震化工事、機械設備を更新するなど、将来にわたり持続可能で、強靱かつ安全で安心な上下水道の整備に取り組みます。

③地域の資源を活かした魅力ある仕事づくり

◆水産業

漁船の新造などに関する制度資金の拡充のほか、老朽化が進行している漁港施設等の長寿命化対策の実施